第 2015-21 号

恵みと真理のニュース

2015 年 5 月の四次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］　卑しめられたのはわたしのために良いことでした。わたしはあなたの掟を学ぶようになりました。

長男が2011年1月に軍隊に入隊しました。息子の願と違って一番北朝鮮と近いカンウォンドのチョルウォンに入隊して寒い中で訓練を受けなければならなかったです。心配をする時に息子から手紙が来ました。行軍する途中で呼吸困難が出来て死にそうだったし、その原因は気管支喘息だったという内容でした。それで息子がさらに心配でした。
それだけでなく新兵訓練をかろうじて終えて3月からもっと大きい試練が始まりました。小便を一日30回もするほど体の調子が悪かったです。その話を聞いて治療薬を買って訓対に送りましたが症状は全然治らなかったです。面会に行った私に苦痛を言いながら依頼して医務隊で治療を受けるようにしました。そのまま置くと体と心が疲れている息子が悪い事を考えるような状況でした。
その場で息子の手を掴んで神様に祈りました。すると神様は私に友達の中で軍隊で高い位置で在職している昔の友達を思い出せるようにしてくださいました。心配しないように息子を安定させて帰って来ました。その友達は1980年高校を卒業をしてから再び会ったこともない友達です。各方面で聞き回して31年ぶりにその友達と連絡が出来ました。そして、友達の助けで指揮官達が息子にもっと関心を持って接してくれて体は苦しいが精神的には安定になりました。軍隊の特性上治療を受けることが厳しくて時間が遅滞されました。徐々にする中今回は 弱よわり目めにたたり目で息子が警戒勤務で立つことが出来ない状態になりました。膝と股関節の異常で正常的に歩けなくて一時期間引きずらなければならなかったです。病院では慢性前立腺炎の判定され指揮官の措置で民間病院で診療を受けました。病院では慢性前立腺炎でもっと精密で正確な判断のためCT撮影と超音波検査をしなければいけないと言われました。社会ではいつでも痛かったらどこの病院に行って治療を受けることが出来るが軍隊では組織の特性上そうではないので病気が酷くなる恐れがありました。軍隊の状況を理解できない事ではないが親の心では苦しくて方法がなかったです。
私は聖書を開いて知恵と力となる神様の御言葉を探して黙想し祈って大胆に軍隊で息子の休暇を要請して許可を得ました。軍の最高病院で息子の病名は慢性前立腺炎で薬を飲むと治ると言われました。しかし、なぜ股関節は痛くて膝まで痛いのか聞くとそれは映像医学科に行って検査を受けなさいと言いました。しかし、そこで2,3ヶ月も待たなければならないでした。一般病院のように考えましたが違いました。社会のように頼んで先に検査を受けることも出来ません。
私は妻と共に切に神様の助けを望みながら祈りました。すると神様は軍医官達の心を開いてくださいました。そしてすぐCT撮影と超音波検査を受けることが出来ました。検査結果は泌尿器の問題はなく整形外科で追加で検査を受けなさいと言いました。軍病院で一日レントゲン検査ＣＴ検査超音波,
MRI検査を全部出来る事は神様の摂理と助けがあってからこそ可能でした。軍医療系は兵士が痛いと大隊の医務隊つぎは地域軍人病院、軍隊統合病院を順番で診療と治療の段階を踏んで息子のように北朝鮮と一番近いどころはそれがすぐ行って検査を受けることも珍しい事でした。神様の恵みでした。
部隊のに結果を報告して部隊の指揮官が驚きました。軍病院と近くにある病院で全ての股関節は異常がないと結果が出来ました。だだし、右の膝の軟骨が軟化症で手術をしなければならないと所見が出ました。それに従って軍隊首都統合病得で入院して外部の病院で手術を受けて再び軍隊の病院でリハビリ治療を受けることが出来ました。その過程を通して息子は健康を回復して最後まで軍隊の義務を終えました。ハレルヤ！
文章では全部表現できない息子の治療過程を見ながらその子供のため摂理してくださる神様の愛と恵みに深く祈る事が出来ました。その後私達軍と兵士達のため祈るようになりました。最近のように軍隊で悪い状況が聞こえると切に祈りたかったです。軍の福音化のため祈ります。軍人の健康のため祈ります。
魂が救われ神様の子供になったことを体験する神様の愛と恵みを数えられなくて表現できません。神様の恵みと愛を全部表現できません。しかし、特に息子の病と治療過程を通して治療の過程を通して経験した神様の恵みによって感謝を捧げます。神様は私を通して教会学校で学生を支えながら教師として奉仕したことが21年間真でやりがいになり感謝で充満です。
休暇の時でも学生の教会キャンプに行って奉仕するため家族手夏の休暇を一度良い所に行かなかったです。教会中心、礼拝中心の生活をしながら人々の関係が足りないが若い時に多い時間を主に献身することに力を尽くしました。そして神様が息子が危なかった時も祈りに答えてくださり私にも知恵と力を下さり助け人を与えて治療してくださいました。そして、息子が真の主を信じ神様に出会って真実な信仰を持つように恵みを与えてくださいました。夫婦関係も家族も仲が深くなり神様にたいする信仰と愛と共に成長するようになりました。
“卑しめられたのはわたしのために良いことでした。わたしはあなたの掟を学ぶようになりました。”卑しめられたのが私に子供達に家族の全てが他の事と比較できないほど有益になりました。これからも主と教会の全ての事に心と体に力を尽くして献身します。主に全ての栄光を捧げます。“ 神は、神を愛する者たち、すなわち、ご計画に従って召された者たちと共に働いて、万事を益となるようにして下さることを、わたしたちは知っている（ローマ　8：28）アーメン！

［信仰コラム］　神 様 の 子

わたしたちが神の子と呼ばれるためには、どんなに大きな愛を父から賜わったことか、よく考えてみなさい。わたしたちは、すでに神の子なのである。世がわたしたちを知らないのは、父を知らなかったからである。（ヨハネの第一の手紙，３：1）

人は誰も一生涯の暮らすうちに多様な称号を得るようになります。 称号はその人の身分を現わすとかあるいは生活状態までも分かるようにします。 そしてその人の自尊心に影響を及ぼします。 だから誰でも良い名称を持つこと願ってまたそのように呼ばれるのがほしいです。 ところで人が得ることができる最上最高の称号があります。 ’神様の子’という称号です。 どんな人でもこの称号と呼ばれらようになったら彼は申し分ない称号を持つようにできた人です。

第一に、どんな人が ’神様の子’と呼ばれるかを調べます。
肉体的な血縁関係や、肉的欲求で所有するようになる社会的な名望、権力、財物として ’神様の子’がなれないです。 また人の意である絶対者に到達しようとする理性的努力、修養、律法遵守なども無用の物です。ただ神様のもとに出なければなりません。 生まれかわらなければなりません。 繰り返し生きるというのは聖書に予言されたとおり十字架に釘付けられて私たち罪をあがないしたイエスキリストを信じる者に聖霊の役事で与えられる神秘な体験です。 イエスキリストを信じる者に聖霊が役事して生まれかわらせてくださって、生まれかわった者に ’神様の子’という称号が与えられるようになります。

二番目で、私たちが ’神様の子’だと呼ばれるように施してくださった神様の愛をよく見ます。
私たちが神様の子で呼ばれるを受けるようになることにすべて形容し出来ない神様の愛が関わっています。 神様の愛は不思議で驚くべきな愛です。 神様が世を愛した愛はイエスキリストをくださったというお言葉の中すべて含まれています。 この以上にもっと大きい愛はありえないです。 神様の愛は差別がない愛です。 老若男女、貧富貴賤、人種の差別がないです。 神様の愛は豊富です。 いくら多い人でもイエスキリストを信じて迎接することができます。 神様の愛はその誰も、その何でも切ることができない愛です。 神様の愛は永遠な愛です。 決して変わらないです。 私たちが一生の間にきいて経験することができるすべての話と事件の中に一番神秘で驚くべきで感動的なことは神様の愛のお話です

三番目で、私たちに ’神様の子’という称号を得させて神様を父に呼ぶようになさったのは聖三位の神様です。
父の神様がその大きい愛で私たちを神様の子にならせました。 聖子イエスキリストが彼を信じる者に神様を父に呼びなさいと言いました。 また聖霊が私たちが神様の子であることを証拠なさって神様をアバ父だと呼ぶようになさいます。
世の中はイエスキリストを送った神様に対する無知のためイエスキリストを信じる者が ’神様の子’で呼ばれるを得るようになった事実に対して分からないです。 そんなにしてもイエスキリストを信じて迎接した私たちが神様の愛を着て神様の子になったという事実は変わることができない真実です。 世界中が不正と言ってもこの事実は変わることができないです。 悪魔が讒訴しても私たちが神様の子に称え受けることをはばむことができないです。 もし私たちが神様の愛のむちを打たれるとか難しい苦難の中にある時でも ’神様の子’という身分は喪失されないです。 この世の中でどんな身分と場合にあっても、どんな称号と呼ばれてもそれによって自慢するとかあるいは意気消沈してはいけないです。 ’神様の子’と呼ばれるよりもっと光栄で恵まれた称号はないです。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

三つの種類の不合理説

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

不合理説と言うのは “言葉が少しも当たらない。言葉が理にかなっていない”を意味します。言葉にならない話、言葉つまらない音を示します。 ある事実に対する主張や論理が前は “言葉つまらない音”と取り扱いされたが後日にはそれが真実だと明かされたことが数えきれないほど多いです。 自然科学の分野ではその例を易しく探すことができます。 古代人々は地球が平たいと思いました。 16 世紀までは人々が天動説を信じました。 地球が宇宙の中心にありその周辺を太陽と月そして 5 個の行星が回ると思いました。 しかしガルリルレオガリレイは 1609 年に望遠鏡を製作したし望遠鏡で天体を観測して地動説を立証しました。 聖書ヨブ記 26 章 7 節には神様が “彼は北の天を空間に張り、地を何もない所に掛けられる。”と記録されています。 地球が宇宙空間で引力によって決まった位置にあるのを啓示しています。ヨブ記はガリレイが地動説を発表する 3600 年前に記録されました。
これから三つの種類の不合理説に関してよく見ます。

第一は、キリスチャンではない人々の“不合理説”があります。

キリスチャンではない人々は聖書で天地創造と各種の異蹟と奇事 そして人類のあがないについての記録を “不合理説”で扱います。 聖書は科学の書籍ではないです。 しかし聖書に非科学的な内容はないです。 非科学的だと思ったことが科学の発展によって科学的に説明されています。 聖書に記録されたお言葉はエラーがないです。 全知全能なさった神様が啓示して記録するようにおっしゃったお言葉であるからです。 望遠鏡と顕微鏡が発明される以前に人々が裸眼で見る世界は非常に制限されたのでした。 そんな時代にもし誰か “天にある星の数が地球上にあるすべての砂の数より多い。すべての物質は目と見えない原子で構成されている。すべての生命体は細胞で構成されている。地球上のすべての生命体の 70%は微生物である。” という主張をしたらまさしく言葉ようではない話をする人に取り扱いされたはずです。しかし今日はこんな知識が常識になっています。聖書の記録を “不合理説”で扱う人々はいつかは彼らの言葉が “不合理説”であるのを知るようになるでしょう。 その中にも深刻な問題は彼らが聖書に記録された創造主の神様が分からなくて救世主イエスキリストを信じなければ最後の審判を受けて滅亡するようになるというのです。 永遠な地獄の刑罰に処するようになります。 こんな事実は不正とか拒否すると言って解決される事ではないです。 だから聖徒はこんな人々をあわれんで思って忍耐しながら伝道しなければなりません。 彼らがむしろ“言葉ようではない話”をしているということを悟るように力をつくして伝道しなければなりません。

二番目は、自称キリスチャンであると言うものの実際ではない人々の“不合理説”があります。

多年の前にインドの牧師様一人が我が教会へ来て説教しました。 その方はインドの最上位の階級であるブラマンに属していました。 その方が言うのをブラマンに属した家でキリスチャンになろうとすれば途方もない逼迫と試練を勝ち抜けなければならないと言いました。 その牧師様もそんな過程を経てキリスチャンになったが福音伝道者への召命を受けて神学を勉強しようとアメリカに行きました。 ある日校庭の芝生から聖書を読んでいるのに神学教授の方が近付いて止めて “何をそんなに目がなくて読んでいるのか?” その尋ねるのに “聖書です。” と答えたら “聖書に記録されたことをそのまま信じないでね。” このように言ったのです。 この事から大きくがっかりしたその方は聖書のどおり信じて教える神学校を探している途中韓国に来て神学を勉強するようになったし韓国で牧師の按手を受けたと言いました。その神学教授に聖書に記録された事件を歴史的な事実で信じて聖書はエラーがない神様のお言葉で信じると話せば “言葉つまらない話”としてしまうでしょう。 “聖書に記録されたことをそのまま信じないでね。” そのように言う人は神学大学教授だと言っても真のキリスチャンではないです。 彼は似以非キリスチャンで彼が教えて判断する話がむしろ “不合理説”です。

三番目は、キリストにあって自分の実際に対する認識と自覚が不足な聖徒の“不合理説”があります。

エジプトを離れ去ったイスラエル子孫が神様が約束したガナアン地を向けて行っていました。2 年の歳月がかかってついにガナアンを目の前に置いたカデスバネア地域に到着しました。12 人の斥侯が選発されて 40 日にわたってガナアン地を探知して帰って来ました。 彼らはモセと民に探り斥侯の報告をしました。 斥侯の中で十人はその地が乳と蜂蜜が流れる地だと批評しながら結論を結びのを “しかし、彼とともにのぼって行った人々は言った、「わたしたちはその民のところへ攻めのぼることはできません。彼らはわたしたちよりも強いからです」”（民数記 13:31）しました。しかし斥侯の中でヨシュアとガルレブは言うのを “もし、主が良しとされるならば、わたしたちをその地に導いて行って、それをわたしたちにくださるでしょう。それは乳と蜜の流れている地です。”（民数記 14:8）しました。 ガナアン地が乳と蜂蜜が流れる地という事実を確認して感じたことは１２人が皆等しかったです。 しかしガナアン地を占領する問題に対しては十人の斥侯の見解とヨシュア、ガルレブの見解が違いました。 ヨシュアとガルレブには十人の斥侯の報告が “不合理説”だったし十人の斥侯にはヨシュアとガルレブの報告が “不合理説”でした。 信仰的な面で理にかなっていないということは “聖書に適当ではない、神様のお言葉に当たらない” のです。 それなら十人の斥侯の報告とヨシュアとガルレブの見て中にどの方の報告が “不合理説”なのかを判断することは非常に簡単です。 神様は数えきれなくおっしゃるのを乳と蜂蜜が流れるガナアンをあなたがたに企業で与えたと言いました。 だから十人の斥侯の報告が “不合理説”であるのが自明です。
聖書はすべて神の霊感を受けて書かれたものであると皆さんは信じますか? イエスキリストだけが救世主と信じますか?
アーメンで肯定的に回答した皆さんは神様の子で天国市民です。 救いを得た人であり聖徒です。 だから聖徒が “私は不幸である。私は貧しい。私は失敗者だ。私は所望がない。” と言ったら “不合理説” です。 幸せな心がキリスチャンにできなくて多くの財物がキリスチャンにできないです。 成功がキリスチャンにできなくて希望を持つのがキリスチャンにできないです。しかしイエスキリストを信じてキリストにあってになれば真の幸せ者になって真の富を所有した者になります。 真の勝利を獲得した者になって真の所望を持った者になります。世の中で経験する都合と事情がイエスキリストにあって変化された皆さんの本質と実際に影響を及ぼすことができないです。 聖徒の皆さんは自分の実際に対する認識と自覚を明らかに持ってください。
使徒パウロはイエスキリストとともにする聖徒の実際を認識しながらこんなに言いました。“しかしわたしたちは、この宝を土の器の中に持っている。その測り知れない力は神のものであって、わたしたちから出たものでないことが、あらわれるためである。わたしたちは、四方から患難を受けても窮しない。途方にくれても行き詰まらない。迫害に会っても見捨てられない。倒されても滅びない。”（コリント人への第二の手紙 4:7～9）、“ほめられても、そしられても、悪評を受けても、好評を博しても、神の僕として自分をあらわしている。わたしたちは、人を惑わしているようであるが、しかも真実であり、人に知られていないようであるが、認められ、死にかかっているようであるが、見よ、生きており、懲らしめられているようであるが、殺されず、悲しんでいるようであるが、常に喜んでおり、貧しいようであるが、多くの人を富ませ、何も持たないようであるが、すべての物を持っている。”（コリント人への第二の手紙 6:8～10）. 皆さんがこんな言葉を宣布すればある人は “言葉にならない話、言葉つまらない音”と非笑するでしょう。 しかしむしろ自分のものが “言わないつまらない言葉”だったという事実が分かるようになる日が必ず来るようになります。

今まで三つの種類の人々の “不合理説”に対してよく見ました。 第一は、キリスチャンではない人々の “不合理説”があります。 福音を捐毀する彼らの言葉が事実は “言葉つまらない話”です。 二番目は、自称キリスチャンであると言うものの実際ではない人々の “不合理説”があります。 “聖書は、すべて神の霊感を受けて書かれたものであってそのすべてのお言葉は真実である” “イエスキリストだけが救世主である。” という真理を認めないながらも自分は救いを得たと言うことは “不合理説”です。 三番目は、イエスキリストにあって自分の実際に対する認識と自覚が不足な聖徒の “不合理説”があります。 聖書に記録されたとおりの自分の実際にふさわしくない言葉はすべて “不合理説”です。 聖徒の皆さんはどんな都合でも聖書に適当な言葉だけ言うことに決心して行うように願いします。